

半田運河周辺ビジョンワークショップ

第二回 レポート 23/12/11 18:30- 場所：喫茶円居



半田運河周辺のエリアビジョンを作るワークショップの第2回。
今回の会場は半田運河沿いに昨年オープンした喫茶円居（まどい）さんです。

【ゲストスピーチ】

喫茶円居のオーナーである神谷さんに最初にお話ししていただきました。

「まちづくりを考える前提で大事なポイントは

①どれだけ広い空間をカバーして考えているか ②長い時間軸で物事を考えているか」であるとお話いただきました。

・空間軸

まちづくりの入り口は地球の平和、そして日本の平和 その次にまちづくり その次に半田市という特定の地域
これからの街はどんな街であるべきなのか？

そこ住む人が喜んでいる、誇りに思っているという、住んでる人の満足と、他市町の競争に勝ち、若い人が移住してくる、外部からの満足が大事。

・時間軸

戦後の日本は、貧困からの脱却を目指し経済を優先した時代。言われたことをやる社会、ものやハードウェアが大成功した。

今、新しい国づくりの息吹が半田に始まっている。

心の豊かさ、量ではなく質。一人一人の自立やコミュニケーションが大事になってきている。

前回のワークショップよりも広い視点で考えてほしい、とワークショップの前に参加者の気持ちが引き締まるお話をしていただきました。

半田市観光協会の榊原さんからは

半田市のビジョンは曖昧な状態だけど象徴的な場所である「半田運河」が半田市のビジョンにもつながるんじゃないかと考えている。とのこと。

【レクチャー】

ここからはファシリテーションを務めるRWの稲波さんにバトンタッチ。

「今日是对話が大事な回です。ビジョンは数十年単位で使っていく時間軸がすごい長いものになるため、それぞれが感じている未来が内包されていないと使えるものになっていかない」とのお話が。

ここにいるのでさえ数十人。実際にはもっと多様な人が住んでいる街の一人ひとり主体性を上げるために。少なくともここにいる人の思いがしっかりと含まれていることが大切です。

【事例紹介】

ビジョンを考えていく前にインプットとしてオレゴン州ポートランドの事例を紹介しました。

ポートランドのスローガンは「Keep Portland Weird」 ずっと変わり者のままでいようよ」

ポートランドの街の様子について聞くと、スローガンが街に馴染んでいてポートランドらしい視点であることがわかります。このように「抽象的だけど、具体的な言葉」がビジョンには求められます。

まずは「自分らしさ・思い」を大切に、そこから市場や社会との接点を見つけることで、その街らしいビジョンや事業が生まれてきます。

ビジョンを決める時に大事なポイントは「文脈」と「ビジョンとしての強度（長い期間の使用に耐えられるか?）」です。

【ワーク】ビジョンを書き出す

個人ワークの後、グループで共有し、グループ内で話し合いながら一つのビジョンにまとめていただきました。

視点として「街の人をどう巻き込んでいけるか」や「今の文化が発展したルーツ」を考えると半田運河がそもそも持ってきたアイデンティティが浮かび上がってきます。まとめる際にいくつかアイデア出てきたときは、その後物事が起こっていきそうかどうかを考えてみると、選びやすいです。

【全体シェア】

○グループ1「勘違いした人たちの酒場」

酒場：ドラクエに出てくるルイーダの酒場をイメージ冒険の最初に初めて人が交流するところ。そこで出会い、パーティを組んで戦いに行く。

勘違い：認めてもらうと人は集まってくる。

日々やってることに自信をなくしてしまう。勘違いした人（認めた、すごいと思っている人）が発信

意見

→下戸でも入れる？ まず、そこにいく場所を作るのはいいと思った。

→酒場という言葉はワイワイしてそうでいいな。リトリートさんのパスタが世界一美味しいと思っていて、それを発信している。

まさにそういうことかなと思った。

○グループ2「半田運河から発く（ひらく）」

発には外に向かっていく力がある何か始めること、発酵、発展、開く、オープン 未来に対して、この字を使いたいと思った。



○グループ3

「行けば会話がはずむ街<地元住民も観光客も>」 店売→発酵・酒

街を回遊でき、何度でも来たくなるまちづくり。会話から、つながりが増える・半田について伝えられる・居場所があることにつながる。

○グループ4「運河人類学 文化する運河 KOU 酵と考」

運河があるから発展する。発展するから運河がある。歴史、食と健康、コミュニティー、教育の視点
意見

→最高だと思います！こうはローマ字でもいいのでは？ KOU 江は水辺のイメージができる

○グループ5「わたしの居場所を醸し出すまち」

街にはいろんな人、多様な文化の混在 いろんな雰囲気醸し出していく。外の人は「行く場所」 中の人は「いる場所、すること」が見つかる。中の人も外の人に向けても情報が整理されている状態にしたい。

意見

→いいね！言葉が綺麗でいい。発信したくなる。

グループ6「生(活)かす 究(極)める つな(継繋)ぐ」

何を？歴史、文化。多様な世界の人、外の人に繋ぎたい

【感想 / 意見シェア】

・運河人類学が良かった

運河周りは学びのエリアってイメージがあるのでしっくりくる言葉。他にない言葉なので検索エンジンのにもいい

・勘違いさせる、という視点がいい。ずっと同じことをやっていると慣れて、自信を無くしてしまう。

・自分たちのチーム（グループ4）が一番いい。やってみたら一番面白いと思う。

・伝わりやすい言葉が浸透しやすいのではないかな？みんなが想像できる言葉が長く使える。普段使ってるような言葉に置き換えたい。

・若い方の発想はすごい。ポートランドは大概の店は自分たちで作っていて、すごい街だなという印象がある

・半田出身ではないので、何にでも特化した人と組んで何かしたい。

お店に閉じこもっていることが多いが市場に行くとか力をもらえる それも発信していきたい

・運河人類学が良かった。半田人ってどんな人かを勝手に考えてもらえるんじゃないか。

他の意見も聞いて、みんな人とのコミュニケーションという視点に目がいつてるんだなと思った。

【次回に向けて】

最後に稲波さんから

この中から一個を選ぶ時に、ここからどんな行動が導けるかが大事、とのお話がありました。

次回はアクションを考えて、今日出てきたビジョンをみんなで見直し、審査していく回になります。

万全の体制で発表できるように準備してきてください！とのエールが。

今回も熱量の高いビジョンセッションとなりました。半田運河エリアのワークショップはあと一回です。